

あいち病害虫情報 最新情報

平成26年11月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温は週毎に変動する見込み

名古屋地方気象台の11月13日発表の1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。なお、気温は1週目は低い確率50%の見込みで、2週目は平年並または高い確率ともに40%と見込まれています。

ムギの排水対策の徹底を！

安全で良品質のムギの生産には、赤かび病によるかび毒汚染の防止が必須です。排水不良は生育不良を招くだけでなく、赤かび病の発生を助長しますので、排水対策を十分に行いましょう。また、種子伝染性病害である裸黒穂病、なまぐさ黒穂病などを防ぐために、種子消毒をしっかりと行いましょう。

キャベツ、ハクサイの病害虫に注意！

フェロモントラップによるコナガとオオタバコガの誘殺数が多い地域があります。ほ場での害虫の発生状況に留意して、防除しましょう。なお、コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けて防除を徹底しましょう。

キャベツ黒腐病の発生がやや多い状況です。本病は風を伴う雨により発生が助長されます。降雨後の発生に注意しましょう。

キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に感染します。菌核病が発生している地域では、他作物での発生にも注意しましょう。

なお、ハクサイべと病は平年並、アブラムシ類はやや少ない発生状況です。

果菜類の病害に注意を

果菜類の灰色かび病やトマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設を密閉し施設内の湿度が高まる11月中下旬頃から発生が多くなります。積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き適切に処分しましょう。

トマトでは、成り疲れなどで草勢が衰えると、葉かび病やすすかび病の発生が助長されます。温湿度管理とともに、生育に応じた肥培管理にも注意しましょう。

イチゴうどんこ病、イチゴのハダニ類に注意！

イチゴうどんこ病は、多発生すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理に努めましょう。

近年、ハダニ類の発生量が多い状況が続いています。ハダニ類の防除では、ミツバチや天敵への影響を考慮して薬剤を選定しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除を徹底し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

キュウリの黄化えそ病に注意！

キュウリ黄化えそ病の発生を確認しています。キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。本虫の防除を徹底するとともに、発病株は抜き取り適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 (内線471) FAX 0561-63-7820